

「節目を尊ぶ、人生は旅」

ふりつむる み雪にたえて いらかへぬ  
松ぞを、しき 人もかくあれ

昭和天皇御製 松上雪

# 松榮山報



謹んで  
新年のお喜びを  
申し上げます

これからの祭典行事案内



一般には二月三日は節分。この日までが暦のうえでは冬、そして翌日が立春になります。神様の世界ではこの立春がお正月になります。まだまだ冬の気配が残るものの随所に「春」の言葉が散りばめられる季節へと変わっていきます。

寅の方、お心当たりはないでしょうか。当日は年男と年女の方々は袴を召していただき、本殿で節分祭のうちに境内の特設舞台から豆まきをしていただきます。神前でお祓いを受けたいばかりの年男年女の皆さんから、この一年間の悪しきことをくじき遠ざけ、そして良きことが重なりますよう福豆を受けてください。

日時と場所／令和四年二月三日(木)

午後三時より本殿にて節分祭のち境内にて豆打ち

尚、当日は大変込み合います。マスク着用のうえ、神門などに設置している除菌スタンドの消毒液で手指の消毒を行って会場へお進みください。

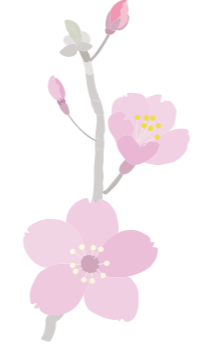


## 春季例大祭のご案内

祭典／令和4年4月9日

大分県護国神社における春秋二大の重儀のひとつである春季例大祭は、春たけなわの四月に斎行されます。

一昨年より新型コロナウイルスの影響によって、心ならずも規模を変更して執り行われております。御霊たちをはじめ、ご遺族崇敬者の方々にとりましては誠に不本意な数年が続いているなかで、祭典は常と変わらぬに斎行いたしております。特にこのような災難に見舞われ、神職、役員総代一同、心を一つにして御霊たちへご奉仕をしています。



<p><b>二月</b></p> <p>月次祭 一日 午前九時から</p> <p>節分祭 三日 午後三時から</p> <p>紀元祭 十一日 午前九時から</p> <p>祈年祭 十七日 午前九時から</p> <p>天長祭 二十三日 午前九時から</p>	<p><b>三月</b></p> <p>月次祭 一日 午前九時から</p> <p>骨董市 十九・二十日</p> <p>春季皇霊祭遥拝式 春分祭 二十一日 午前九時から</p>	<p><b>四月</b></p> <p>月次祭 一日</p> <p>神武天皇祭遥拝式 三日 午前九時から</p> <p>春季例大祭前夜祭 八日</p> <p>春季例大祭 九日 午前十時三十分から</p>
---	---	---

これからの祭典行事案内 (ただし情勢により延期や中止となる場合があります)







# 令和四年 年頭のご挨拶



大分縣護國神社宮司 八坂 秀史

令和四年の新春にあたり、聖寿の万歳と御霊の安鎮を心から祈ります。  
昨年は秋篠宮家の眞子さまが降嫁されました。行く末のご平安をひたすら祈るばかりです。  
昨年辛丑（かのとうし）の年は悪疫に苛まされた年でした。当社社も昨年一昨年と二年四季にわたり、春秋の例大祭が不規則な齋行を余儀

なくされました。ご祭神にもご遺族崇敬者の皆様にも誠に申し訳なく残念なことでした。今年も引き続き辛い年になるのでしょうか。丑の着実な歩みを寅が受け継ぎ、わずかでも世の中が良い方向に進むと信じます。  
今年には十干が九番目の壬（みつのえ）、十二支が三番目の寅（とら）ですので、干支は壬寅（みつのえとら）です。「壬」は陽気を下に宿すさまを表し、「はらむ・生まれる」へ「荷う・ことに当たる」の意味があり、「妊」や「任」に通じます。「寅」の字の真ん中部分は人が向かい合っている象形文字で、「手を合わせる・約束する・協力する」を表します。下のハは人を示し、「たすける・つつしむ」という意味が生じます。  
志を同じくする者が助け合って物事は発達し、人間は向上します。しかし物事が進んでいる時

に往々にして失敗は起こるものです。順調の影の慢心、その戒めるべきものを古代農耕民族は虎で表し、時代とともに寅を当てるようになりました。トラと聞くと何か威勢のいいことと感じがちですが、寅には「おそれつつしむ」という意味があるのです。  
壬寅は、新しいことを皆で助け合いながら丁寧に育てる、熟考し自分を律しながら進めることの大切さを表しています。悪疫の有無にかかわらず、困ったときはお互いさまの当たり前の心を改めて大事にしたいと思えます。御霊のご加護と私たちお互いの支え合いのもと今年も世の平らぎを祈ります。  
節目を尊ぶ、人生は旅



穏やかに明けた令和四年。それはまるで新型コロナウイルスによるさまざまな災いとは無縁の世の中にも見える平和なお正月の風景でした。まさしくお正月は世の中のとあらゆる物事を清め、そして人々の心を取り繕い、切り替えを施すという果てしなく大きな力を持っていることに今年の特段に感じました。それはとりも直さず神様の御神徳にほかありません。日本人が昔より敬い、そして日々の暮らしのなかでもっとも身近な拠り所としている八百万の神様との共存のかたちの結果であると言えます。  
四季折々の私たちの暮らしにおいて行われるさまざまな行事。そのなかでも特に皆さん誰もが等しく喜びを分かち合う新年、お正月は神様の存在をもっとも感じ、そして深く祈りを捧げる大切な歳時です。古今東西、世界中の国々、そしてそこに暮らす人々によって新たな年を迎える特色のある行事が繰り返されます。国の風土、歴史、文化、そして信仰。その違い、お国柄が如実に表れるのがお正月のあり方、過ごし方です。  
私たちの命が授かるすべての根源は、森羅万象を有する自然、そしてそれにまつらう信仰によるものです。神様や仏様がお姿なきものであっても、そこに居ますがごとくに接する私たちの篤い信仰、祈りを重ねるそれは誠に崇高な姿でもあります。特に日本人にとって信仰、信心は代々受け継がれている悠久のアイデンティティとも言えます。  
新しい年を迎え、心も新たに参拝される皆さんの笑顔、そして新しい年を寿ぐ大分高等学校書道部による書初めなど社頭で行われたさまざまな神賑わいは、本殿にお鎮まりの御霊たちも

感応され、さぞかしお喜びであったことと思えます。お正月のあらゆる縁起物が参拝者をお迎えする護國神社は、まさしく社頭すべてが「皆さまをお守りする場所」となります。  
幸いなことに、今年のお正月は昨年比べて新型コロナウイルスによる感染者数も少なく、参拝される方々も非常に晴れやかな面持ちでした。これが、これこそが、数年間疫病で苦しめられていた末に、きつと訪れるであろうと待ち望んでいた「平和と穏やかさ」であると確信しました。そして紛れもなく御霊たちが私たちにしっかりとお守りくださっていると改めて感じました。見えない力こそ私たちの深く大きい味方になってください。一喜一憂しながらも少しずつよい方向へと進むよう、そして難ありて有り難しと思える平和な日訪れるよう願わずにはおれません。  
参拝の方々の様子を拝見し、どうか今年こそ新型コロナウイルスが終息へと向かうよう、宮司をはじめ神職はさらに祈りを厚くしました。  
私たちの笑顔と祈りは、必ず御霊、大神様に届きます。護國神社の大神様は皆さんにとって、もっとも身近な存在であった人々です。私たちが暮らすこの国、この大分で生を受け生きていた人々です。姿形がありここで暮らしていた人々でした。ですから私たちの喜びや悲しみを真正面から受け止めてくださる、今は尊い神様なのです。  
ご奉納  
大注連縄の藁  
杵築市山香町向野 永野 恵様  
大注連縄奉製  
隊友会様並びに東原老人会様





# 御創建百五十年 終戦八十年 記念事業のご案内

大分県護國神社は明治八年十月十八日に御創建。令和七年には御創建百五十年を迎えます。

遡ること蛤御門の変、佐賀の乱、西南の役、先の大戦を含め戦死された大分県縁故の御霊四万四千四百余柱が鎮まる大分県の総守護の神社として、また大分県民の心のふるさとの御社として、御創建以来長く親しまれております。

また当社にとって御創建百五十年の記念の年は、終戦から八十年を迎える大きな節目の年にもなります。大東亜戦争において日本を守ってくださいました御霊たちの尊い命の礎があればこそ現代の日本の平和と繁栄です。当社が迎える歴史の節目と、日本の国にとって意義深い節目が、令和七年で重なり合うことは、とりも直さずふたつの歴史の点がひとつに結ばれている不思議さを改めて感じます。

このたびこの大きな記念に、後世まで残る記念事業として、新たに参拝者



の休憩所の建設をはじめ、参道の整備を行うこととなりました。

日頃より当社に格別のご崇敬を賜っておりましてご遺族、崇敬者各位をはじめ各企業や団体には、後日改めまして趣意書にて記念事業の詳細やご奉賛方法をご案内いたします。

本事業の趣旨をご賢察賜わりまして、何とぞご高配くださいますようお願いいたします。

## 募金目標

一億円

## 記念事業

- 一、参拝者休憩所新築
- 一、参道石畳敷設および石造玉垣設置
- 一、第一駐車場整備



十二月の護國神社は来る年に向けて重畳の縁起物の建立お披露目や、一年間の清め祓いが続きます。

十二月一日には「虎」が描かれた大絵馬の除幕が執り行われました。干支が変わるごとに毎年大絵馬の大きな干支の絵も変わります。境内に大絵馬が設置されると、いよいよ師



走がやってきたことを肌身で感じます。今年の虎の絵は誠に愛くるしく、参拝者の皆さんに一年間の安堵や平安を与えるかのような姿です。

続いて五日には大勢の方たちが見守るなか、巨大な大破魔矢と大熊手の建立が執り行われました。大型重機を自在に操りながら徐々にその姿が天に向かってそびえ立っていき様子、息を呑む圧巻な光景に、毎年ながら背筋が伸びる思いがしました。

設置後には恒例の仰天お菓子まきが行われ、歓声と景気づけの大銅鑼の音が境内いっぱい響き渡るなか、縁起物の大熊手近く頭上高くにあるクレーン車から大量にまかれるさまざまなお菓子。建立を祝う花びらが舞うようなお菓子を、参加の皆さんはまさしく神様からのお下りのようにいただかれてました。天恵を授

かるうとする老若男女の姿は除災招福をひたすら願うものでした。

十九日には冬至の大祓式、三十一日には年越の大祓式がそれぞれ執り行われ、今年一年間の大難小難を参列者が祓い清めていました。冬至が一陽来復というおめでたい言葉で示すように、弱まっていた太陽の力がこの日を境に徐々に回復していくというところで、自身の運氣の上昇を願う私たちにとっては大変意味の深い一日でもあります。そして一年間の締めくくり大晦日の夕刻に執り行われる年越の大祓式もまた、大きなけじめのお祭りとして、古くから宮中をはじめ多くの人々にまで大切に受け継がれています。

す。水と火は相反するものながら、どちらも私たちの命にはなくてはならない大切な存在です。それぞれの季節と日本の風土に合った有り難い行事に参拝される皆さんから崇敬をいただいています。

二十五日は御煤払祭と大注連縄づくりが行われました。一年間のさまざまな汚れ、特に近年は大気汚染も影響して年ごとに汚れが顕著になってきています。御霊たちが鎮まる本殿をはじめ神門など神職と仕女一同が手にする斎竹で清めました。同日の朝から有志の方々の手によって大注連縄づくりが行われ、午後には真新しい大注連縄が本殿に架け替えられました。

いよいよ間もなく新しい年明けを感じるひと月。護國神社の年末の多彩な行事が執り行われました。



DX(デジタルトランスフォーメーション)という言葉をご存じだろうか。これは平成十六年にスウェーデンの大学教授によって提唱されたもので「デジタル技術を浸透させる事で、人々の生活をより良いものへと変革する」という意味だそうだ。けれどこの概念は「同時に既存の価値観や枠組みを根底から覆すもの」とされている。現在、日本はこの変革の大波に呑み込まれ、日常の様々な場面でデジタル化が進みつつある。その中で、神社界も氏子崇敬者との関係を模索していかなければならないのではないかと考えている。

例えば神符守札の授与については「人民の請求に応じ、氏子崇敬者に授与する事」であり、社頭授与が原則である。だが、インターネットを通じて御守や



権禰宜 海野 眞

御札の授与をしている社寺も少なくない。遠方にいる方、体の不自由な方等、様々な理由で社頭まで出向けなくとも神符守札を受けたい、と申し出る方々の思いを掬い上げる方法であるのは間違いない。だが、それと同時に通販商品と同じ様な気持ちで頼んでいる方もいるのではないかと、信仰とはその様なものではないですよ、と一言申し添えたくもなってしまう。

DX(デジタルトランスフォーメーション)という言葉をご存じだろうか。これは平成十六年にスウェーデンの大学教授によって提唱されたもので「デジタル技術を浸透させる事で、人々の生活をより良いものへと変革する」という意味だそうだ。けれどこの概念は「同時に既存の価値観や枠組みを根底から覆すもの」とされている。現在、日本はこの変革の大波に呑み込まれ、日常の様々な場面でデジタル化が進みつつある。その中で、神社界も氏子崇敬者との関係を模索していかなければならないのではないかと考えている。

期間には水仙や豊後梅が咲き、山桜にも出会えます。移ろう自然の織りなしのなかで、常とは異なりながらも初詣の有り難い神恩をお受けください。

破魔矢などのお正月の縁起物をはじめ、お守りなども初詣同様にお授けいたします。



初詣：令和4年3月21日春分の日まで



当社展望台からは別府湾をグルリと囲む山群が見える。手前から猿棲む高崎山、志高湖横の小鹿山、山群の中心たる由布鶴見の峰、台形の内山、ザビエルの伝説残る鹿鳴越連山、国東半島の盟主両子山などだ。五年前熊本地震の爪痕残る内山の手前には山頂から扇を逆さまに扱げたようなきれいな草原がひとときわ目に付く。正式には大平山(おひらやま)だが地元では扇山と呼ばれる。毎年春先には山全体の野焼きが行われ、そのため樹木は育たず四季を通じてきれいな草原が保たれている。別府の夜空を焦がすこの壮大で幻想的な火祭り、冬の間扇山で休んでいる温泉の神々に春を告げる意味もある。本稿「山歩記」の記念すべき第一話はこの扇山の野焼きを認めた。改めて標高八一五Mの山頂を目指した。

根へと下る。内山との分岐までは数分、右手明礬方向に下る。やがて足元は舗装路となり秘湯なのにみんなが知ってるへびん湯にいたる。浸かるつもりが若人で溢れていたのでもやり過ぎす。恵美寿神社に参り案内通りに進んだはずが道は消え、カンで草原進んだらひよっこりゴルフ場に。驚くプレイヤーしり目になんとか道に合流。山麓の慰霊塔と亀に乗った観音様を拝み(何故ここに?)無事出発地点に戻った。遠くから見える広大な三角形の草原を左の角から時計回りにほぼグルトと一周したわけだ。途中難所らしき所もあったが距離も時間も軽登山、毎日登る人がいるのもうなずける。知人も曰く、平地歩いて体力つくか、扇山ぐらい毎日登らにゃ!と(あくまでも個人の感想です)。

# 初詣につきまして

新型コロナウイルス蔓延防止を鑑みて、護國神社では本来のお正月の初詣期間を幅のあるものとして参拝の皆さんに心安くお参りいただくことしております。

皆様のご理解とご協力のもと、三密の分散化によって、より安全に、そしてより心静かにお参りいただければと願っております。

神様の御心は広大無比です。皆さんがお参りをなさりたい時こそが、神様がお招きくださった参拝の日、神様との結縁の日に当たります。ご利益が弥増すとされている黄道吉日となります。

正月三が日の元来の初詣にとらわれることなくお越しくださるようご案内とお願いをいたします。3月までの初詣